

## 「中津小学校の大敷ばやし伝承活動の取組」

### 1 学校名

薩摩川内市立中津小学校

### 2 学年・人数

3・4年生（計5人）

### 3 日時・場所

- (1) 練習の日時・場所  
令和2年11月12日（木）（本校体育館）
- (2) 発表の日時・場所  
令和2年11月14日（土）（本校体育館）

### 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

- (1) 名称  
大敷ばやし（おおしきばやし）
- (2) 由来  
甕島で行われている定置網（大敷網）のブリ漁大敷網漁は、時代とともに機械化され、人力による漁は、完全に忘れ去られ、歌も聞かれなくなり、消え失せてしまいました。この唄ばやし（作業唄）の生まれは、甕島であるといわれており、大隅・宮崎方面でも唄われていますが、いずれも甕島の漁師から教えられたと言われています。
- (3) 構成等  
二艘の舷側を表した板に網をかけ、15余人のねじり鉢巻き姿をした男性の乗子が一列にならび、「ヘンーヨイショウ、ヘンーヨイショウ」と声を揃え、全員が網を引く動作を同一になるように行う。女性は、法被を羽織り、調子や歌詞に合わせて勇壮な海の男、魚と戦う様子を踊る。  
この作業唄は、しりとり式に唄われ、いつまでも続くように唄われている。

### 5 保存会や地域との連携の具体

郷土芸能として、平良婦人会が上甕村文化祭で毎年発表し、保存会が結成され、今日に至っている。平良芸能保存会は、上甕町平良自治会の有志の集まりで、例年行われているふるさと総合文化祭で発表している。

本校の学習発表会を地域のふるさと総合文化祭と共催することで、児童の目に触れるきっかけとなり、地域の伝統芸能であるこの踊りを、ふるさと・コミュニケーション科の郷土を知る学習で児童が学ぶ機会を得た。

今年度は、甕大橋開通記念の際に有志で披露した。また、ふるさと総合文化祭は「コロナウイルス感染症対策」のため中止となったため、学校単独の学習発表会で披露した。

## 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

自治会長に相談し、芸能保存会の方々の協力を得て、実施の運びとなった。これまでも、学校行事や地域行事でお世話になった方々だったこともあり、打合せもスムーズに進み、子供たちも見たことのある踊りだったことから、すぐに活動に入ることができた。実際の大道具は、使わなかったものの、曲や小道具、所作を学ぶことから始めた。

今後継続して取り組んでいけるよう、学校応援団の登録もお願いすることができた。

## 7 発表の様子（学習発表会・11/14）



## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

始めに見たときは、難しそうだなと思いましたが、優しく丁寧に教えてもらって、終わるときには踊ることができました。家に帰っても大敷ばやしの歌を歌っていました。 【3年生児童】

初めて踊りましたが、はんや隊で踊っていたので、踊りの動きをすぐに身に付けることができました。漁師の力強さや船の上での動きをイメージして踊るようにしました。 【4年生児童】

甕島の海をイメージしたこの踊りは、力強い漁師の動きと仲間と息を合わせることで、勇壮な踊りになります。昨年度と同様に中津小学校から声をかけてもらい、子供たちと一緒に踊れて私たちが元気をもらいました。 【保存会】